

2 安全・安心

生活に安らぎのあるまち



「びとづくり」に重点を置き 地域防災力を強化

◎ 消防団の充実強化

地域防災の中核となる消防団は、全国的に団員数が減少傾向にある中、松山市では、市民全体で消防団を応援する「まつやま・だん団プロジェクト」の推進や、基本団員をはじめ全国トップの団員数を誇る女性団員、将来の地域防災を担う大学生消防団員、事業所消防団員など、多様な人材が活躍できる環境を整備することで、団員数は10年連続で増加しています。

◎ 自主防災の充実

住民主体で地域防災力強化を目的に結

成する『自主防災組織』は、結成率100%

を達成し、防災訓練や研修会などを通じて住民の防災意識の向上に取り組んでいます。また、地域の防災リーダーとして重要な役割を担う防災士の養成を支援しており、自主防災組織への防災士配置に加え、市立の保育所・幼稚園、小中学校や児童クラブ、福祉避難所、災害協定事業所などにも防災士を配置するなど、防災士の数は全国の市区町村でトップとなっています。

◎ 大学と連携し防災の担い手を育成

愛媛大学と連携し、防災士の資格を取得した大学生による「防災リーダークラブ」を結成しました。同クラブでは、市内4大学・2短大の学生が、各地域で定める地区防災計画の作成や小中学生への防災教育支援などに関わることで、卒業後も地域防災のけん引役として活動できる人材の育成に取り組んでいます。

「いつか」に備えて 地震に強いまちづくり

◎ 耐震化の推進

近い将来、発生が危惧される南海トラフ巨大地震などの災害に備えて、災害時の指定避難所となる小中学校の校舎や公民館、幼稚園の耐震改修を計画的に進めています（うち小中学校は平成28年度、幼



耐震化された小学校校舎

医療機関に隣接し 救命率の向上へ

◎ 救急ワークステーション

重篤傷病者への医師による治療開始の早期化を図るとともに、救急救命士などの教育体制を充実させ、救命率のさらなる向上を目指すため、平成27年10月、救急業務に携わる職員の教育拠点になる『救急ワークステーション』の運用を開始しました。救急業務に従事しながら、医療機関で研修を受ける「常駐型」は、中四国では初の取り組みです。



地域防災のけん引役となる人材を育成

ここがいい、加減。

松山人が語る幸せの種



タレント
榎形 浩人さん

ソフトとハードの両面で バランスの取れた取り組み

私は阪神淡路大震災の被災者。地震により、人とまちが壊れてしまう状況を目の当たりにしました。だからこそ、災害への備えの重要性を痛感しています。そうした中、松山市はバランスの取れた取り組みをしていることを知り、安心を感じました。特に強固な「自主防災組織」というのは大変心強い。私の被災経験から言えば、地域の団結というのは何者にも代えがたい備えです。お互いが顔見知りであること、そして緊急時のリーダーがいること、これが被災から立ち上がる力になると思います。いたずらに危機感を煽らず、でも備えをしっかりしている松山は、安心して暮らせるまちですね。